

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年2月22日

【評価実施概要】

事業所番号	3071400240
法人名	医療法人 恵友会
事業所名	グループホーム ガーデンライフ
所在地 (電話番号)	和歌山県海南市船尾265-8 (電 話) 073-483-3113

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平2丁目1-2		
訪問調査日	平成20年1月30日	評価確定日	平成20年2月22日

【情報提供票より】(19年12月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年6月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 8人, 非常勤 3人, 常勤換算 9.5人	

(2) 建物概要

建物形態	☒ 併設 ☐ 単独	新築/改築
建物構造	鉄骨 造り	
	3 階建て	2 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円)	☒ 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円) 無	有りの場合 償却の有無	☒ 有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 200 円
	または1日当たり 1,000円		

(4) 利用者の概要(12月15日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	0 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82 歳	最低	75 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	恵友病院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者のグループホームに対する熱い思いが、職員や充実したケアにつながっており、それが利用者の穏やかな表情、態度に表れている。母体が医療法人であり密に連携が図られる中で、利用者は健康管理・リハビリテーションを身近に受ける事ができ、病状が悪化した場合の入院やターミナルケアの取り組みについても家族に安心されている。地域から認知症についての理解が得られる様、講演活動やキャラバンメイトとしての活動等積極的に取り組んでおり、その成果も上がっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	玄関まわりや居室等生活空間づくり、ケアの充実、地域交流等指摘を受けた改善点については真摯に受け止め改善に努めている。特に前回のアドバイスを受けて、窓際に折りたたみ式のカウンターを新たに設え、園児や街並みを眺めながらくつろげる様工夫されておりその姿勢が窺える。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員は評価の意義を充分理解しており、今回の自己評価についてもミーティングの中で項目毎に話し合い、管理者がそれをまとめ上げた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は地域の相談役や地域包括支援センター職員等行政の参加を得て2ヶ月に1回開催しており、ホームについての理解を深めて貰えるよう情報提供等行い、外部評価・自己評価への取り組みについても説明し意見を求めている。また、ボランティアの受け入れ等についても相談し、検討して貰っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ボランティアからは率直な意見を出して貰えているが、家族からの意見・不満・苦情等表出されていない。今後家族からも意見等引き出せる様一層の努力が望まれる。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会や老人会との交流は図れていないが、婦人会や地域のボランティアの協力を得て手芸や書道等の作品を作り、公民館主催の文化祭に出展して参加したり、溝掃除をしながら近隣の方々との交流の機会が持てる様、積極的に取り組んでいる。

2. 評価結果（詳細）

（ ☐ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体法人の「サービス提供方針」を踏襲して、管理者・職員共に利用者に誠意を尽くし、利用者本位の生活を支援するという理念は作っているが、地域密着という観点からの理念ではない。	○	地域の中でその人らしく暮らし続ける生活を支えていくという事を主にした新たな理念を全員で作り上げられる事が望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者のリードの元、理念を日々確認し、全員で共有してケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	婦人会や地域のボランティアの協力を得て手芸や書道等の作品を作り、公民館主催の文化祭に出展して参加したり、溝掃除をしながら近隣の方々との交流の機会が持てる様、積極的に取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は自己評価・外部評価の意義を理解しており、全員で取り組んでいる。また、前回の外部評価を受けて日頃のケアを真摯に見直し改善につなげている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は地域の相談役や地域包括支援センター職員等の参加を得て2ヶ月に1回開催しており、ホームについての理解を深めて貰える様に情報提供等行い、外部評価・自己評価への取り組みについても説明し意見を求めている。また、ボランティアの受け入れ等についても相談し、検討して貰っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム関係者でつくる地域ケア会議に出席して市町村担当者に意見等が伝えられる機会を設けており、共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族に来て貰える様に毎月の支払いは敢えてホームへの現金払いとしており、来られた時に暮らしぶり等を報告している。また、健康状態等については随時電話で連絡を取っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回の一泊旅行や日帰り旅行を家族会として実施しており、その機会に家族からの意見等出して貰える様にしているが、雑談にとどまり十分に引き出せていない。	○	ボランティアの方々からは率直な意見を貰っており改善に繋げている。同様に家族からも意見等引き出せる様一層の努力が望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職や法人内での異動はあるが、利用者へのダメージは最小限に抑えられる様配慮する中、職員のきめ細かな気配りにより極自然に交代出来ている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のレベルアップを図る為にも研修の積極的な参加を奨励しており、希望すれば無理なく参加出来る様配慮されている。また、働きながらの学びを重視しており、現場ですぐに助言出来る様体制を整えている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム連絡会に参加しており、情報の交換や相互訪問を通じて学び、サービスの質の向上につなげている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族に、事前見学して雰囲気を確かめて貰っている。事前見学が出来ない時は職員が家庭を訪問し自宅の雰囲気を掴んで本人が不安にならない様に工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を人生の先輩と捉えており、調理や味付け、野菜や花の育て方等様々な事を学ぶ機会も多く、喜怒哀楽を共にする中で支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや意向の把握に努めている。重度化する中で年々難しくなっているが、職員や関係者で話し合い本人本位のケアに徹している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	より良く暮らして頂くために、利用者の担当職員を決め、十分に把握できるよう努めている。家族や医師等関係者の意見等採り入れた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画についてはミーティングの中で頻繁に話し合い、見直しを行う等検討を重ね、現状に即した計画を作成している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体法人の病院と医療連携体制の契約を結んでおり、十分な医療体制が整えられている。また、宿泊を伴う旅行等特別な外出支援により個々の満足度を高める様努力している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	殆どの利用者は母体の病院医師をかかりつけ医としており、2週間に1度の診察を受けている。外部に主治医がある利用者についても、家族の付き添いを受けて適切に受診出来る様配慮されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時の説明の中で重度化した場合や終末期の対応について話し合っている。利用者の状況に併せ家族・医師等関係者で話し合いを重ね、重度化した場合の方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者を尊重しており、言葉かけや対応なども穏やかで、プライバシーを損ねる言動は見られない。また、個人情報については、保管等取り扱いに充分注意を払っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの様子を見ながら本人本位のケアを心掛け希望に沿って支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、盛り付け、後片付けなど一連の作業を利用者の力の発揮出来る場ととらえ、職員と共に楽しみながら行って貰える様支援している。また、屋上菜園で収穫した旬の野菜を食材とする等季節感も味わって楽しめる様配慮されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、ずっと銭湯を利用していた利用者は夕食前に等、一人ひとりの時間設定は希望に合わせて行っている。また、冷え対策として就寝前に足浴を行い安眠にもつなげている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ボランティアの協力を得て、押し花・手芸・書道等取り入れているが、日常的には食事の後片付けの後、ソファに座って過ごす時間が長くなっている。	○	一人ひとり張り合いや喜びのある生活を送って貰える様、さらなる工夫が望まれる。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	建物の2階部分にホームがあり、気軽に出かけ難い構造ではあるが、屋上ガーデンで野菜や花を育てており、そこで食事を摂る等、屋外で過ごす事が出来ている。また、極力散歩や買い物等戸外に出かけられる様支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかける事の弊害を理解しており、午前9時から午後5時迄施錠していない。一人で外出する利用者については、その行動等を把握し、十分に満足した上でスムーズにホームに戻る様、法人内職員の協力も得て支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力もあり、母体法人が行う避難訓練に利用者と共に参加している。また、職員間で避難通路の確保や家具の転倒防止・夜間帯の避難等について話し合いの機会を持っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスやカロリーも把握した上でメニューを作成しており、食事摂取量・水分量も記録し、食事以外でも水分を十分に摂れる様工夫されている。また、食事が十分に摂取出来ない利用者にはエンシュアリキッド等を追加して摂って貰っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	集いの場となっている「お食事・だんらん室」は家庭的な落ち着いた雰囲気、窓からの陽光も程良い明るさで、街並み季節感を楽しむ事が出来る。随所にソファが置かれ居心地良く過ごせる空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室入り口には屋上ガーデンの花を使った押し花作品が飾られてあり、明るい雰囲気になっている。また、居室内には使い慣れた家具や小物が適宜配置され、居心地よく過ごせる様工夫されている。		